

平成 30 年度第 2 回 浦安市生涯学習推進計画策定懇談会

第 1 回分科会（生涯学習） 議事要旨

日時：平成 30 年 9 月 5 日（水）

午前 10 時～12 時

会場：市役所 1 階 S 1 会議室

<出席委員>

野島 正也 分科会長
米山 泉 委員
影山 栄子 委員
武澤 秀明 委員
工藤 真由美 委員

<欠席委員>

なし

<議 事>

1. 開会
2. 分科会長あいさつ
3. 内容説明
4. 議事
（1）課題の整理について
（2）次期計画の方向性について
5. その他
6. 閉 会

<配布資料>

- 【資料 1】 市民意識調査等に基づく課題の整理
- 【資料 2】 課題検討シートのまとめ
- 【資料 3】 懇談会（分科会）について

1. 開会

(委員)よりあいさつが行われた。

2. 議事

(1) 課題の整理について

(2) 次期計画の方向性について

事務局より議事(1)について、資料1、2、3を用いて説明が行われた。

(委員) 生涯学習の課題と次期計画の方向性について合わせて議論を進めていく。各施策に記載される事業の評価はどのようになっているのか。

(事務局) 現在、関係各課に調査を行っており、今後取りまとめる。

(委員) 資料P3.2(1) 現行計画に記載されていた課題について、議論したい。現行計画で「学習情報の一元化」が必要とされていたが、現在どのような状況なのか。

(事務局) 浦安市生涯学習情報提供システム「まなびねっと URAYASU」(以降、「まなびねっと」)において、市内の社会教育関係団体の情報が一元化されている。しかし、団体情報の更新など活用にあたって課題が出てきている。

(委員) 利用者はどのくらいいるのか。

(事務局) 500ほどの団体の情報が登録されており、月に1,000件ほどのアクセスがある。

(委員) 施設の利用申し込みはそのページから行うことができるのか。

(事務局) 浦安市公共施設予約システムへのリンクが貼られている。

(委員) 団体の情報の更新頻度はどの程度なのか。

(事務局) 団体による。

(委員) 高齢者が多く、情報発信が苦手な団体もあると思う。生涯学習課で支援はできないか。

(事務局) 専任の担当者を配置できず、すぐの体制整備はむずかしい。「まなびねっと」の活用方法の講習会を検討してもよいかもしれない。

(委員) 「まなびねっと」を見て団体への入会を希望する人もいたと聞く。

(委員) サイト全体で、できるだけ高い頻度で情報を更新し、閲覧者を増やしていけるとよい。

(委員) 総合体育館で展示を行った際には、会場での案内から「まなびねっと」にアクセスしてきた人もいた。

(委員) 各分野・団体それぞれが様々な方法で情報を発信している。横のつ

ながりをつくるためにはしくみだけでなく、実際に口頭で共有することも重要だと感じている。以前、ある分野でそのような機会を設けたことがあるが、実際に会ってみて初めてお互いの理解が深まった。

- (委員) 直接共有する場や機会が重要ということか。
- (委員) 一度直接やり取りすると、その後の相談もしやすくなり、コミュニケーションが円滑になる。こうした団体間の交流のきっかけづくりも重要ではないか。
- (委員) 次に、ライフステージごとの課題・方向性について議論したい。「青少年と一括りにせず、小学校、中学校、高校、大学ときめ細かな対策が重要になる」「家庭教育は今後も重要な位置づけとなる」「現代的課題とは、行政から提示される課題だけではなく、市民が生涯学習に取り組むうえで主体的に解決していく課題と捉えていくことが重要である」といったことを議論できるとよい。
- (委員) リタイア直後の、特に男性の生涯学習を通じた地域参画は重要な視点ではないか。リタイア前から地域に関わるきっかけをつくることで社会的な孤立を防ぐことは重要だと感じている。特に男性はリタイア後すぐに地域に関わるのは簡単ではない。
- (委員) 高齢期に向けた準備として、地域で横のつながりをつくることは重要である。
- (委員) 生涯学習を通じた地域デビューのきっかけをつくっていく視点は引き続き重要である。
- (委員) まずは生涯学習の講座に参加しやすい雰囲気づくりが重要ではないか。
- (委員) 例えば歴史を学ぶ講座も、一人ではなくグループでレポートまとめる形式にすることで、少しずつコミュニケーションを取りながら生涯学習に取り組むことができる。
- (委員) 人とコミュニケーションを取りながら進めることが苦手な男性もいると思うが、少しずつそういった機会をつくれるとよい。
- (委員) まずは男性のみでグループを組む方が、円滑にコミュニケーションが進むケースもあると聞く。
- (委員) 新たな人間関係にうまく入っていくきっかけづくりが重要となる。次に、資料2を基に議論を進めたい。検討テーマ1の1つ目の意見について、多様な働き方への対応と障がいのある方の生涯学習は今後重要な視点となるのではないか。
- (委員) 働き世代が仕事の時間を調整して「学びたい」と思える魅力的な企画が重要である。「話を聞いてみたい」と思える魅力的な人を招いた講演などができるとうい。

- (委員) 現時点で著名な人を招くと予算やスケジュールで調整が難しいかもしれない。今後注目される人を発掘するという視点もあってもよいのではないか。
- (委員) まずは学ぼうとする市民の意識改革も重要だと感じている。コミュニティバスでの情報発信もとても有用だと感じているが、素通りしている働き世代もいると思う。
- (委員) 広報紙を新聞の折り込みではなく、戸別配布した自治体では認知度が向上したという話を聞く。
- (委員) 2つ目と3つ目の意見について、小中学校の教員で社会教育主事の有資格者はどの程度いるか把握できているか。
- (事務局) 一定数いると思うが、実態は把握できていない。
- (委員) 大学時代に取得している人もいると思う。
- (委員) 地域で社会教育に関する活動ができる人材は潜在的に多くいるのではないか。
- (委員) 開かれた学校という考え方の中で、教員が地域に出て活動するということも考えられる。地域と連携して教育に取り組む教師像をつくりあげるといった視点もあってもよいかもしれない。
- (委員) 社会教育主事養成の見直しは、いつ予定されているのか。
- (事務局) 2020年4月に社会教育主事講習等規程の施行が予定されている。
- (委員) 有資格者が地域で肩書を持って活動しやすい環境ができるとよい。
- (事務局) 市民ボランティアの育成など人材育成の取組もある。市全体で地域の活動に関わる人を増やしていけるとよい。
- (委員) 4つ目の意見について、生涯学習に関心のない市民も一定数いる。
- (委員) 関心を喚起していく施策も重要となる。5つ目の意見については、ニーズを把握するためにアンケートを実施できるとよい。今回のように調査結果に基づきニーズを把握できるとよい。(委員) 6つ目の意見について施設の予約はインターネット上でできる。施設はどの程度稼働しているのか。
- (委員) 利用料金が安いことから施設の稼働率は高く、予約が埋まっている状況が多い。
- (事務局) 平日の夕方の時間帯に空くこともあるが、週末は抽選となるケースもあり、稼働率は高い。
- (委員) 社会教育関係団体に認定されている団体の数は多い。
- (委員) 受益者負担の考え方は重要だと思う。7つ目の意見について、広報うらやすでの情報発信が重要だと思うが、希望者に積極的に情報を配信するサービスがあってもよいかもしれない。
- (委員) 意欲のある人が積極的に情報を取得する。そこにリーチできる手段があるとよい。

- (委員) 検討テーマ2について議論したい。
- (委員) 1つ目の意見について、団体の私塾化の傾向は実際にあるかもしれない。公共施設を利用するという意識が希薄化しているのではないか。
- (委員) プロの講師を招くと一定程度の謝金が必要になる。専門的に学ぼうと思うと、講師を招き謝金を支払うといったそのようなケースも出てきていると思う。団体の会費も大半がこうした謝金に充てられているケースも多いと思う。
- (委員) 塾や民間の各種教室のように講師（先生）が中心になって月謝をとり活動を進めている場合は私塾と捉えられる。
- (委員) 会員によって民主的に運営されている団体であれば問題ない。市民が納得できる施設の利用を今一度周知していくことも重要かもしれない。
- (委員) 集まった有志のメンバーで自主的に学びを推進していくことが生涯学習だと考えている。2つ目の意見について、うらやす市民大学や講座のOB・OGの活動は重要だと考えている。どのような形態で進められているのか。
- (委員) 通年型講座となっているが、公開講座もある。
- (委員) 3つ目の意見について、40～50代の時にリタイア後を見据えて地域に関わることは重要である。
- (委員) 自身の経験から、40～50代で一度地域活動に取り組むと、リタイア後に精神的な負担がなく地域に関わっていけると感じている。継続的な活動は難しいと思うが、40～50代で一度でも地域に関わる機会をつくることはとても意義があると考えている。
- (委員) 参加者数だけでなく、講座の意義を考えていくことも重要になる。
- (委員) 40～50代の市民に生涯学習活動に足を向けさせることを成果と捉えられるとよい。
- (委員) 4つ目に意見について、公民館と生涯学習課の密な連携を期待したい。
- (委員) 公民館はどこの課が所管しているのか。
- (事務局) 生涯学習部が所管している。各館に館長がおり、組織として生涯学習課の管理下にあるわけではない。
- (委員) 検討テーマ3について議論したい。1つ目の意見について、「協働」の視点は次期計画でポイントになると考えている。2つ目の意見は現代的課題に関連するが、今後質の高い講座を実施していくうえで重要になると考えている。
- (委員) 成人が子どもと一緒に生涯学習を行う機会は重要になるのではないか。

- (委員) 世代間交流は市のこども課が取り組んでいるのか。
- (委員) 青少年課が学校施設などの空き教室を有効活用した放課後子ども教室等で取り組んでいる。
- (委員) 異なる年齢の子どもの交流が進められるとよい。また、例えば高齢者が小学生の授業を受けられる取組があると面白い。
- (委員) 教員の負担にならないとよい。
- (委員) 生涯学習と学校教育の連携・協働は重要な視点である。コミュニティスクール以外にもどういった連携ができるか考えていけるとよい。
- (委員) 生涯学習活動を学校で実施したいと考え、相談を持ち掛けたことがあるが実現しなかった。学校の負担を軽減する目的で、連携を進めていけるとよい。
- (委員) 地域で学校を支援していく姿勢を伝えられるとよい。
- (委員) 3つ目の意見について、民間の生涯学習に関する情報を市は把握できているのか。
- (事務局) 新浦安カルチャープラザはヒアリングも実施し、情報を確認している。
- (委員) 民間事業者とのすみ分けも考えていく必要があるかもしれない。他自治体では、講座・講習会バウチャー制度というものがある。対象となる学習機関が実施する講座・講習会の受講料の一部を補助する制度である。
- (委員) 5つ目の意見は活動で使用する備品の充実についてである。団体が活動しやすい環境の整備に取り組んでいけるとよい。6つ目の意見は専門家を招いて郷土史を充実していくべきという意見だが、たしかに江戸・明治期の情報が少ない。
- (委員) 資料を充実するとともに郷土博物館を利用する市民を増やしていけるとよい。

3. その他

第2回分科会の日程は後日事務局が調整することとなった。

4. 閉 会

以上